

校舎の片隅に残っている雪が解け、雪解けの水は早春の草花のいのちを潤してくれています。春の気配を感じ始めたこの良き日に、ヴォーリズ学園近江兄弟社高等学校を巣立っていかれるみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者のみなさま方には、在学中のお子様や生徒たちを支えていただき、また本学園、教職員を応援していただきましたこと、心より感謝申し上げます。来賓のみなさま方におかれましては、ご多用の中ご臨席いただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。

卒業は、人生の一つの通過点かもしれません。しかし、第二の誕生と言われる思春期、青年期である高校の卒業は、みなさんの人生にとって大きな意味を持っています。夢や希望、悩みや葛藤を抱えながら、自分と向き合い、友人や大人たちの支援なども糧にしなが、今の自分にできる生き方、進路を自分で選択し、そのスタートラインに立った日だからです。私たち教職員にとっては、みなさんの期待や要望に果たして十分に応え、支援することができたのかと振り返る大切な日でもあります。

目的は人生であり、仕事はそのための手段です。人として、どう生きるのかを考えると、そのための視点がヴォーリズ学園にはたくさんあります。学園訓「地の塩 世の光」がまさにそうです。進路が内定したみなさんを対象に先日行った講座では、学園訓を中学生に自分の言葉で語るとしたら、あなたはどうか伝えますかと問い、ワークシートに書いてもらいながら話をしました。ある生徒は、「一人ひとりがかげがえのない存在。いのちに大きななんてなく、すべて平等に尊いもの。自分のためだけではなく、他者を思いやる心を大切にすること」と書いてくれました。またある生徒は、「私という存在が大切であるということ。誰ひとり必要のない人はいない。嫌なことがあった時、部活動でうまくいかないことがあった時に、いるだけで明るくなったり、前に進んでいけること」と書いてくれました。私も、自分の言葉で、「みなさん一人ひとは、かけがえのない存在です。自分らしく生きること、誰かを助けることができれば、とても素敵な人生になることでしょう。でも、そんなことがなかなかできない時があっても大丈夫です。あなたのかげがえのなさは変わりませんから」と伝えました。

授業、行事、部活動など、みなさんが取り組んできたこと一つひとつの積み重ねに意味があり、経験してきたことに、無駄なことは一つもありません。なぜなら、学校は、失敗付きの練習ができる場所だからです。チャレンジした結果の失敗や葛藤のなかでこそ、素敵な援助者である友人や大人と出会えるのです。そこで助けてもらった経験は、あなたのなかで人を助ける力になっていくのです。そう考えると、失敗や葛藤は、そこから成長していく大きな伸びしろになっていると思うのです。それはもはや失敗ではありません。先日の卒業礼拝での4人の生徒代表のスピーチからも、私はこの点を確信しました。

第一希望が全部かなう人生はありませんが、その希望に向かって努力して得た力は、次の希望に向かっていくときに、あなた自身を支えてくれます。また、成長していく中で、希望が変化していくこともあります。変化を恐れないでください。それも成長の証しだからです。前期の生活アンケートでは、みなさんに「将来の人間像」について記述してもらったことがありました。その一部を紹介します。

【あなたは将来どんな人になりたいと思っていますか】という問いに対して

自分に素直に生きていきたい、いろんな人に優しくできる思いやりのある人、いろんな国の人々と関わり日本と海外の架け橋になりたい、みんなに助けられているので人の役に立てるような人間になりたい、誰にでも平等に接することができる人、いろんな出来事に臨機応変に対応できる人、周りから応援される人、新しいことに挑戦できる人、人の幸せを素直に喜べる人、社会的に弱い立場の人の役に立ちたい、自分の好きなことをしながら誰かの役に立てる人、社会の問題を解決できる人、広い視野とリーダーシップをもった人などでした。

みなさんは、10年後どんな人間になりたいですか。私は、本学園で学び生活する中で、このような生き方を身に付け、自分の言葉で発信してくれているみなさんのことを心から誇りに思います。

次のステージで根を張っていくみなさんに、学ぶことの二つの意味について、最後に強調しておきたいと思います。一つ目は、社会とつながって生きて働くときの選択の幅が広がるということです。将来どこに着地しても、通用する人になっていくということです。二つ目は、自分のことと社会・世界のことがよくわかっていくということです。自分と向き合うことで、自分の強みや課題がわかってきます。学ぶことで、現在の社会や世界が抱える例えば、戦争と平和の課題、環境、食糧、人口、資源、エネルギー、ジェンダー、貧困などをめぐる課題についてよりわかってきます。大学や専門学校などで、自分の専門の学びを切り口に、主体性と協働性を発揮して、心ある仲間と共に課題解決を図っていくということです。この二つのことを大切にして、学び続けていただくことをみなさんに期待し、式辞と致します。